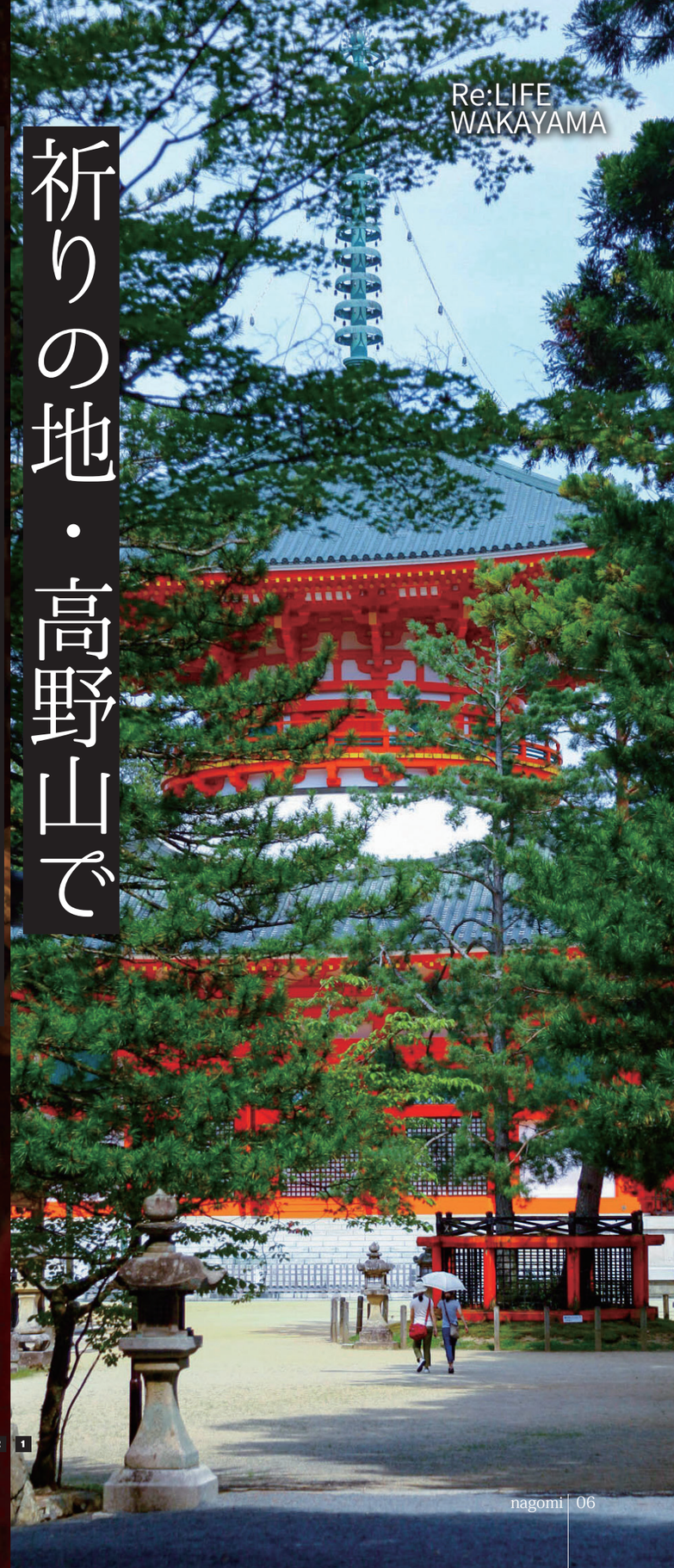
祈りの地・高野山で どう生きるかを考える



空海が、その形状を仏教と深い関わりがある〝蓮の華〟に見立てたといわれる高野山。内八葉外八葉と呼ばれる峰々に囲まれたその山上盆地は、今なお歩いて登るには厳しい場所である。

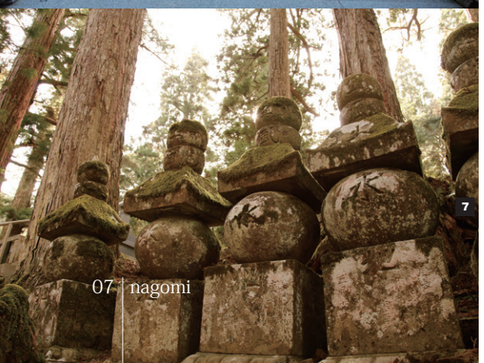
「高野山は空海と弟子たちが力を合わせ、自分たちで築きました。当時、唐へ留学するような僧は、土木や建築などに関する知識も深く、空海も民衆のために堤防やため池の築造などに尽力した非常に優秀な知識人でした」と語るのは、総本山金剛峯寺高野山執務公室課長の岩西彰真さん。全国各地に残る空海の井戸伝説なども、そんな背景から生まれた実話に近いモノかもしれない。

当時の仏教寺院は、平地に建てられることが多かったといわれている。建築に対する造詣も深い空海がなぜ、温暖な気候の和歌山においても、冬は凍てつくほど寒い標高８００ｍという高地に高野山を築いたのだろう。

「それは修行の妨げとなる〝人里から離れる〟というより、〝自然の中で修行ができる〟ことを重要視したのだと思います。宇宙のエネルギーを感じながら、自分も自然の一部であり、人も自然もそして仏も、全て同じだという真理にたどり着くことができる場所。それが、ここ高野山だったのではないかと思います」。その考え方は阿字観という修行にも通じる。〝阿〟とは、全宇宙を包括する大日如来を表し、この大日如来と一体になる過程で自らを客観視し、あるがままを受け入れるという悟りに近づく。それはまさに人と自然と仏が同じであるという真理そのものだ。

静寂な高野山の夜、暗闇に立ち込める空気。なんとも言えない不安と、何かに包まれているような安心感の中、どう生きるのかを考える。そう簡単には答えに辿り着かないかもしれないが、高野山は何かを教えてくれそうだ。

❶開創の発端となった三鈷の松。奥に見えるのが根本大塔。❷高野山入口に建つ大門に祀られている金剛力士像。❸真言宗における修行のひとつ阿字観。「阿」は大日如来を表している。❹高野山を囲むように繋がる女人道に建つ鳥居。❺根本大塔内陣。中央に鎮座しているのが大日如来。空海入定後、弟子である真然により完成した。❻壇上伽藍とならぶ高野山の二大聖域の一つ、奥之院。❼奥之院参道の五輪塔。

高野山執務公室
課長
岩西 彰真
Iwanishi Shoshin

2023年はお大師様、御誕生1250年の記念の年。誕生日の6月15日を中心として、5月14日～7月9日の57日間は日曜日毎に法会を開催予定。各100名規模のお稚児さんの衣装を着た子供たちが僧侶と歩く稚児行列は必見。